



エピソード

ある日の雨の日、A児が一人で廊下から外をじっと見ていました。外にそっと手を伸ばすと手の甲が雨に濡れ、不思議そうな様子で、「先生見て」と保育者に手の甲を見せました。保育者が「雨がついたんだね。これは雨粒だよ」と声をかけると、A児は「あまつぶ？」とつぶやき、その後突然保育室へ走り出しました。

A児は自分のロッカーからゼリーカップを取ってきて、雨が入るように外へ手を伸ばしました。保育者はA児の様子をしばらく見守っていましたが、雨が激しく降っていたため、「服が濡れちゃうよ。どうしたらいいかな」と声をかけました。保育者の言葉を聞き、A児はカップを地面に置きました。「なるほどね。入るといいね」と保育者も声をかけ、一緒にカップの様子を見ていました。A児は、雨粒がうまく入るように、カップの位置を何度も調整し、『ポソソ』と音を立てて雨粒がカップに入ると、「入ったー」と大喜びでした。その後も「いっぱいがいい」と言い、A児は何度も集めていました。

その様子を見ていたB児とC児が「何してるの？」と保育者に聞きにきました。「何してるんだっけ？」と保育者がA児に聞くと、「雨、ここにいてる」と答えました。それを聞いたB児C児は「やりたい!」と言い、カップを近くに用意するとそれぞれ自分のカップを持ち、A児と一緒に雨粒集めを始めました。一番雨垂れがあるところを探したり、手を上に上げて直接カップに入れようとしたりなど、どうしたらたくさん集められるか工夫しながら楽しんでいました。

保育者の思い

- ・自然現象を不思議に思い、「やってみよう」という子どもの思いを尊重し、自分で考えたり試したりできる環境をつくれるようにしました。また、保育者がすぐにヒントや答えを伝えるのではなく、子どもが自分で気付けるように見守ることを大事にしています。

- ・雨粒集めにB児C児が興味をもったことをきっかけに、友達と一緒に集められるように言葉のやりとりの橋渡しをしたり、カップを近くに置きすぐに試せるようにしたりしました。今後も友達と一緒に関わったり遊んだりできるように、保育者が仲立ちとなりながら見守っていきたいと思います。

子どもの育ちや学び

- ・手についた雨を不思議に思ったことがきっかけとなり、カップを持って来たり、雨がうまく入るように調整したりなど、「雨粒をたくさん集めたい」という思いに向かって、自分で考えて行動していました。

- ・友達の姿を見て、工夫しながら集めたり、一緒に集めたりなど、友達と関わる楽しさを知ることができました。

家庭だったら・・・

子どもたちは、日々「やってみよう!」「これはどうなるんだろう」という好奇心でいっぱいです。子どもと同じ目線になって一緒に考えたり試したりしてみると、子どものワクワク感を共有でき、発想の面白さを知る事ができると思います。ぜひ、子どもたちの世界を覗いてみてください。